

科目名称	日常生活活動学実習
授業コード	BG280
英語名称	
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	金子 千香, 奥田 裕, 安田 耕平
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「日常生活活動学」で学んだ考え方、方法、知識を基に、さまざまな疾患や障害状況に対する日常生活活動の評価および指導方法や介助に関わる知識ならびに手技を修得する。とくに、対象者の日常生活活動のベースとなる基本動作（起居動作や、移動時の杖・車椅子等の活用など）の評価、指導、介助などに関わる基本的な手技を体得し、さまざまな疾患や障害状況に対する適用・応用能力を培う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員がその経験を活かし、日常生活活動の評価および指導方法や手技について、代表的な疾患・障害別に理解が深まるよう講義と実技実習を行う。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに則り、理学療法の実践を学ぶために、理学療法士として必要な実践的臨床能力と知識の統合を図ることを目標とする。具体的な目標は以下の通りである。 1. 理学療法士として日常生活活動（ADL）を可能にする身体機能、基本動作、生活動作・行為の関係を理解する。 2. 理学療法の対象となる主要疾患や障害（片麻痺・脊椎損傷・脳性麻痺・関節リウマチ・変形性関節症・下肢切断・呼吸器疾患・循環器疾患・神経筋疾患・難病など）の特徴とそれに対応したADLの関連を理解する。 3. 各疾患・障害に応じたADL評価および指導の特徴を説明できる。 4. 各疾患・障害に応じたADLのうち、とくに基本動作（起居動作や、移動時の杖・車椅子の活用など）の評価、指導方法（遂行と能力獲得）、介助に関わる手技を説明して実施できる。 カリキュラムポリシーに則り、2年次前期科目「日常生活活動学」での学習内容を踏まえた上でアクティブ・ラーニングを取り入れた往還的な授業により上記目標達成を目指す。
計画・内容	第1回 ガイダンス、理解度確認 担当：金子（理学療法士） 第2回 ADLに対するアプローチと分析・評価 担当：金子 第3回 起居動作（1）臥位・寝返り・起き上がり 担当：奥田（理学療法士） 第4回 起居動作（2）臥位・寝返り・起き上がり 担当：奥田 第5回 起居動作（3）立ち上がり・移乗・歩行 担当：奥田 第6回 起居動作（4）立ち上がり・移乗・歩行 担当：奥田 第7回 片麻痺（1）障害像とADL 担当：奥田 第8回 片麻痺（2）指導の実際とポイント 奥田 第9回 片麻痺（3）障害像とADL 担当：奥田 第10回 片麻痺（4）指導の実際とポイント 奥田 第11回 高次脳障害・認知症（1）障害像とADL 担当：奥田 第12回 高次脳障害・認知症（2）指導の実際 担当：奥田 第13回 脊椎損傷（1）障害像とADL 担当：金子

計画・内容	<p>第14回 脊椎損傷（2）指導の実際とポイント 担当：金子</p> <p>第15回 関節リウマチ・膠原病（1）障害像とADL 担当：金子</p> <p>第16回 関節リウマチ・膠原病（2）指導の実際とポイント 担当：金子</p> <p>第17回 下肢変形性関節症（1）障害像とADL 担当：金子</p> <p>第18回 下肢変形性関節症（2）指導の実際とポイント 担当：金子</p> <p>第19回 下肢切断（1）障害像とADL指導の実際とポイント 担当：安田（理学療法士）</p> <p>第20回 脳性麻痺（1）障害像とADL指導の実際とポイント 担当：安田</p> <p>第21回 神経筋疾患・難病（1）障害像とADL 担当：金子</p> <p>第22回 神経筋疾患・難病（2）指導の実際とポイント 担当：金子</p> <p>第23回 呼吸器・循環器疾患（1）障害像とADL 担当：安田</p> <p>第24回 呼吸器・循環器疾患（2）指導の実際 担当：安田</p> <p>理解度確認、試験（別途）</p> <p>講義、実技演習の配分、対面・非対面形式については大学ならびに学科の方針により決定・変更します。履修登録者には大学メールやWebclassまたはCampusSquare掲示板にてお知らせしますのでこまめに確認をして下さい。（CampusSquare以外の方法で履修登録される方は事前に金子までメールにてご連絡ください。）</p> <p>非対面形式で実施される場合がありますので、通信機器ならびに通信環境の整備をお願いします。難しい場合は事前に金子までメールにてご相談ください。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と配布・配信資料に沿って行う。 ・必要に応じて資料、映像を教材とする。 ・実技実習は、計画・指導のもと、実施者、モデル、助言者等を体験学習する。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイントの確認とその解説を行い、理解度の振り返りを行う。 ・学生自らが考え実践することが学びとなるため積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・「日常生活活動学」の復習 ・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、学習テーマの要点を確認して不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間）。 ・講義後は教科書や資料および実習で学んだポイントを整理し、また、理解の補足や確認を要する事柄を調べてノートにまとめること（各回1時間～2時間）
教科書・参考書	<p>教科書：「日常生活活動学」の教科書（下記）を継続して用い、必要に応じて資料を配布する。 白田滋編集、Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学 メジカルビュー社） 石井慎一郎(編)、動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社</p> <p>その他、必要に応じて講義時に紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>授業参加状況（出席だけでなく能動的な参加状況による）10%、課題提出状況50%、試験成績40%から総合的に評価する。課題内容が不十分の場合には課題の再提出や補講、再試験を実施することがある。</p> <p>能動的な学びが主体であるため、全講義出席することが望ましい。 やむを得ず欠席をした場合は講義担当教員に相談をして補習の指示を仰ぐこと。</p> <p>受講に際して不適切な行為（学生証の不正使用や授業の録音録画、課題・試験時の不正等）が発覚した場合は単位を認めない場合がある。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>リアクションに応じて適宜補足説明を行う。</p>

オフィスアワー	CampusSquareを参照 メールにて随時
留意事項	初回授業はガイダンスを含みます。履修希望学生は必ず出席して下さい。 授業中、学習のための質疑や討議、実技や動作・手技の確認に積極的に参加して下さい。 授業時間以外の質問等は担当教員金子まで。メールにて随時受け付けます。 金子メールアドレス：c-kaneko@ntu.ac.jp
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業参加状況（出席だけでなく能動的な参加状況による）10%、課題提出状況50%、試験成績40%から総合的に評価する。 ・課題内容が不十分の場合には課題の再提出や補講、再試験を実施することがある。